特別寄稿

下水道場と人材育成

石狩市建設水道部
水道担当部長
清野　馨

縮小生産社会への曲がり角に
前提考え直し再度価値付けを

■はじめに

1月31日に都内で開催された国土交通省主催の「下水道場」へ参加しました。年に数回、全国各地から若い職員が集い、自らを研磨する場として活動の幅を拡大させているとのことです。詳細は同省ホームページで今後報告されるものと思いますが、希望と夢で溢れる皆さんをみて素直に、これから多くの経験を重ねながら、鋼のような強い精神と優しい心を持った紳士淑女（下水道職員）に育ってほしいと願いました。

そのような凛々しい皆さんも未だわからないことばかりで、さぞ不安なことと思います。しかし大丈夫です。自らを鍛えねばという気持ちさえあれば、今は力不足でもいいのです。ただし、この時点でいくつか知っておいてほしいことがあります。

■大きな時代の曲がり角

まず一つ目は、下水道が国民生活の日常を支えているという、目立たないけれども命に直結する極めて重要な役割を担ってきているということ。しかもその信頼は、多くの先輩方のたゆまぬ努力の紡ぎによって今日に至っているということです。

二つ目は、これから皆さんの先輩方や「下水道場」などで教わる通り、多くの施設において老朽化が進んでいるにもかかわらず、人口減少社会の中で収益が減少し適切なる更新や地震への備えができないといった多くの問題を抱えていることです。

そして三つ目は、蛇口をひねれば水が出て、使用後の水はなくなるということが国民の間で当たり前となっている今、皆さんのまちの下水道にもさまざまな問題があるということを承知していない、または積極的に知らせてきていない住民などに対して、その問題を放置するとどうなるのか、それを回避するにはどうしたらよいのかということなどについて、ステークホルダーとよく話し合う必要性が今まで以上に高まってきています。

このように今の下水道は、縮小再生産社会の中で初めて本格的な循環的更新を始動させるという大きな時代の曲がり角に立っているということを、まずは皆さんに知っておいてほしいのです。

■前例主義からの脱却

その上で皆さんにぜひともお願いしたいのは、前例主義から脱却し、常に近い目と遠い目をもって「考える」ということを意識してほしいのです。

仕事というのは、究極的にはやらされるか、やるかしかありません。皆さんはまずはやらされることの方が多いはずです。それはその経過を経て初めて、自分のやりたい仕事ができるようになるからです。それでも皆さんには、考えることを貪欲に努めてもらいたいのです。

ただし、考えるという営みは、既存の社会が認める価値の前提や枠組み自体を疑うという点において、本質的に反時代的・反社会的でかつ勇気を必要とする辛い行為でもあります。しかし最近のインフラ施設にかかわる大小多くの災害や事故を見てみると、その中には決して私たちの想像力が及ばないものでも、思考能力を超えるものでもなかった点がいくつもありました。

私たちは見えているものを見ないようにしてきた。聞くべき声を聞こえぬかのように過ごしてきた。知っているのに素知らぬ振りをしてきたとは言えないでしょうか。

■取り組んでほしいこと

現実の社会は、歴史や伝統、あるいはその時々の必要や利益によって組み立てられています。時には不条理なこと理不尽なことさえあります。日常を生きていく時に、日常世界の諸要素や社会の構造について、各自が深く考えることはそれほどありません。考えなくても十分に生きていくことができるからです。

しかし、社会的な諸制度が次第に硬直化し、自己目的化していく常において、私たちが守るべき下水道を健全に機能させ存続していくためには、既存の価値や疑われることのない諸前提を今一度根本から考え直し、再度価値付けし直す機会を自らの意思をもって持つ必要があると思うのです。

もちろん常に考えることを意識するのは、視点の違いこそあれ全ての人々の使命であり義務でもありますが、若い皆さんにもぜひとも既存の価値や疑われることのない諸前提などを知らないということを逆に強みにして、まずは身近な物事から考え直し、私たちが取り組まねばならない時代に即した再構築政策の立案に向けて、共に歩んでいただきたいと強く願うところなのです。

■人材育成の壁

百年樹人という中国の格言は、一年で何かをするなら穀物を植え、十年なら木を植え、一生をかけるなら人を育てるのがよいという意味だったように思います。紀元前7世紀の管仲（管子）の言葉で、後の「国家百年の計は教育にあり」の原典です。

下水道界も同じであり、持続可能なサービス提供を具現化させるカギは、やはり将来を託す人つまりは皆さんなのです。その皆さんを育成する人とは、そもそも互いに切磋琢磨もできませんし共存共栄もでき得ません。もしこのような壁を自覚なされた際は、その都度、取り除いていただきたいと願っています。

今、一つの壁になり得るのは、皆さんを育てようとする先輩や上司の心の持ちようです。

ここでは詳しく申し上げませんが、人材育成は先輩や上司の務めであり義務です。私も先ほどのごとき愚かな壁なども先輩や上司の心の持ちようによっては、叱られて反感をもち不愉快な態度を示す人、自主性のない人や協調性のない人、これは私の仕事ではないと杓子定規な考え方をする人、そして問題点ばかりを指摘し代替案の提案もせず批判ばかりなどにはならぬよう、例えば山本五十六の名言「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ」や「話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず」、そして「やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず」等など自戒の念を持つように心がけております。

■おわりに

今まで経験したことのない循環的更新の始動や耐震化を、財源が縮小する中でどう再生産していくのか。それには長い時間が必要です。だからこそ私たちは、若い皆さんを大切にしたいのです。

されど老朽化著しい多くの施設は待ってなどくれません。皆さんを驚かせるつもりはありませんが、これまで例示してきた問題などを放置すると、間もなく陥没事故が頻発し、排水水質の劣化や環境汚染が問題となり、そして財政破綻が起きます。

それを回避させるための妙薬などはありません。ただただ地道でかつ辛抱強く、長い時間をかけてさまざまなことに世代や業界を超えて多くの人の知性をもって、草莽崛起で取り組むということしかないのです。

だからこそ職場内訓練のみならず、この国土交通省主催の「下水道場」や全国で開催されている「地方版下水道場」を一つの場として、自己研さんと切磋琢磨に努めた皆さんからの熟慮の結果と、勇気ある発言や提言を期待しているのです。そしてそれこそが下水道界の活力となり、21世紀の奇跡を作り、強い組織を作り、強靱な日本を創ることになるのです。

皆さんは近い将来、その全てにおいて主役となる大切な宝なのです。

しかし、過度にプレッシャーを感じる必要はありません。それでもプレッシャーに過敏に反応して、不安で押しつぶされそうになる人もおられることと思います。息の長いキャリアを築くには、上手に息抜きすることが大切です。

今回、私が参加させていただいた「下水道場」では、引き続き意見交換会もありました。皆さん一杯のグラスをもって本当に上手に息抜きをし、これからの仲間づくりをしておられました。

私たちが若い職員に目をむけ、手を差しのべるように、全国津々浦々の希望と夢で溢れる若い皆さんも、それぞれの先輩の下で風に向かって立ちながら、喜び、汗をかき、そして苦しみつつも、苦境から逃げない強い精神力を培ってほしいと心より願っております。